

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：12603

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24720401

研究課題名(和文) 北部オーストラリアの「多民族社会」：日本人移民とオーストラリア先住民の交流史

研究課題名(英文) Japanese Migrants and Indigenous Australians: polyethnic society in the northern Australia

研究代表者

山内 由理子 (Yamanouchi, Yuriko)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：50626348

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、オーストラリア北部の都市ブルームで、1870年代より1960年代までの日本人移民とオーストラリア先住民の子孫のアイデンティティとルーツに関する実践を探った。文献調査とフィールド調査により、彼らの多くがオーストラリア先住民の親族組織や社会活動に従事する一方、日本人側のルーツを認め、語り、たどる、という実践を行っていることが明らかになった。そこには、複数のエスニック・アイデンティティの共存を認める先住民コスモポリタニズムとも呼べるべき態度があり、アジア人との接触の歴史の長いオーストラリア北部においては、日本人のルーツをも取り込んだ「先住民」としてのあり方が存在すると言える。

研究成果の概要(英文)：This project explores the history of the migration of Japanese workers to the Broome pearl shell industry from the 1870s to 1960s, their interactions with local Indigenous Australians, and the lives of their descendants. By combining ethnographic and archival data from Australia and Japan, this research revealed what could be called 'Indigenous cosmopolitanism' among Japanese-Indigenous Australian mixed descendant people, which embraces both sides of identities. This attitude has been developed through the long history of interaction between Indigenous Australians and Asian, including Japanese, migrants in northern parts of Australia, where mixing with, acknowledging and respecting other roots is part of the experience of being 'Indigenous'.

研究分野：文化人類学 オーストラリア先住民

キーワード：オーストラリア 日系人 オーストラリア先住民 移民 歴史 アイデンティティ 先住民コスモポリタニズム

1. 研究開始当初の背景

戦前、アメリカ両大陸を合わせたよりも多数の日本人がアジア太平洋地域に移住し、現地の人々と様々な形で交わり、時には混血の子孫を残した。だが、従来の日本人移民研究はアメリカ両大陸に偏り、日本国内国外双方で彼らに関する研究は極少数であった。また、多くの日本人移民研究においては、移民の世代間の格差や社会組織、アイデンティティ等が主な研究対象となっていたが、移住先の他のエスニック・グループ、殊にマイノリティ・グループとの関係は、移民に大きなインパクトを与えるにもかかわらず、突き詰めて調査されてこなかった。更に、他のエスニック・グループとの混血の人々のアイデンティティに関してはアメリカ合衆国における研究で人種間の壁を超える可能性を注目されてきたが (e.g. Root 1992)、その分析枠組みが同国の人種概念に依存しすぎており、それ以外の地域の混血の日系の人々に関しては着目が成されていない。本研究はこの様な観点より、北部オーストラリアの日本人移民を例に取り上げ、アジア・太平洋地域における日本の位置を考え直すと共に、人の交流としての移民現象のダイナミズムを捉える新たな視点を提示することを目的とした。

日本におけるオーストラリア北部への移民に関しては出稼ぎ移民研究 (鈴木 1992) や移民自身の経験に焦点を当てた研究 (小川 1976、久原 1986) 戦後に残留した移民に関するエピソード的な調査 (司馬 1980、中野 1986) 戦後に移住した「ライフスタイル移民」に関する少数の調査 (塩原 2003、水上 2007) 等が存在する。しかし、これらの調査は基本的に日本人移民の社会状況や移民自身のアイデンティティに焦点を当てるものの、移住先の人々との関係や混血の子孫の存在には着目がなされてこなかった。一方オーストラリアにおいては戦前の日本人コミュニティ (Sissons 1979, Nagata 1996) やオーストラリア北部の真珠貝産業研究の一部として日本人移民を取り扱った研究 (Bain 1982, Ganter 2006) が存在する。だが、これらの研究においては真珠貝産業に巻き込まれた日本人移民とオーストラリア先住民の関係は友好的か敵対的かのどちらかとして語られ、真珠貝産業を支配する白人支配下の被差別的立場を共有しながらも様々な側面において異なる状況にあった両者の関係のダイナミズムには踏み込めていないままであった。

一方、オーストラリア先住民は日本国内においても、オーストラリアにおいても長年研究の対象であり、彼等の社会・親族組織や美術、ジェンダー関係等が研究の対象となってきた (e.g. Berndt and Berndt 1954, 窪田 2005)。しかしこれらの研究においては、オーストラリア北部におけるエスニック・グループ混交の歴史の帰結は、その枠組みには組み入れられていない。

研究代表者はシドニー大学大学院博士課程において、シドニー南西部におけるオーストラリア先住民に関する調査を行った。その結果浮かび上がってきたのが、「先住民アイデンティティ」が多様なエスニック・グループとの関係のダイナミズムから柔軟に形成されてきたこと、及び、調査者の日本人性が従来研究者の中心だった白人調査者とは異なる先住民の対応を引き出していること、であった。以上の関心を元に、申請者は 2008 年以後、オーストラリア先住民と日本人との親密な交流のあった地域としてオーストラリア北部 (殊にブルームと木曜島) に目を向け、2009 年、2010 年に短期間の予備調査を行った。そこにおいては、日本人とオーストラリア先住民の子孫が現在も存在し、日本人と先住民の交流の歴史が彼等との間の社会関係やアイデンティティに複雑な影響を及ぼしている。彼らは北部オーストラリアにおけるエスニック・グループ混交の歴史を主張しながら日本人とオーストラリア先住民双方にアイデンティファイする。彼等の中に存在する多様性とそのアイデンティティのダイナミズムを探り、それを可能にした歴史的・社会的背景を明らかにするには、文書と語りに基づいた歴史的調査及びフィールドワークを基盤とする文化人類学的調査の両方を必要不可欠とした。

2. 研究の目的

1870 年代より 1960 年代まで北部オーストラリアのブルームや木曜島には日本人移民が真珠貝産業等に従事するために流入し、オーストラリア先住民と様々な形で交流した。今日においても現地には日本人とオーストラリア先住民の血を引く子孫が存在する。本研究ではこの日本人移民とオーストラリア先住民の交流の歴史と現在における彼等の子孫のアイデンティティを文献調査、オーラル・ヒストリー調査、参与観察、インタビュー調査により探り、これを通じてアジア太平洋地域における日本及び日本人移民の位置付けを見直し、「日本人性」「日本人アイデンティティ」の多様な可能性を問い、更に日本人の子孫でありながら、オーストラリア先住民の子孫である、というあり方を探る事を目的とした。

本研究としては、まず、背景として、北部オーストラリアにおける日本人移民とオーストラリア先住民の歴史的関係を洗い出し、日本人移民と現地先住民のコミュニティ形態、相互への影響、結果としての子孫の取り扱い、等を文献や語りを通じて掘り下げ、オーストラリア北部における日本人移民の実態を捉えると共に、その現地との相互インパクトや今日の現地社会への影響等を明らかにする。

その上で、日本人移民の子孫達が自らのアイデンティティをどう捉え、それが彼等の歴史認識やライフヒストリーとどの様に関わ

ってきたかを明らかにする。彼らが自分の中の「日本人性」をどう認識してきたのか、それが同時に「オーストラリア先住民であること」とどの様に関係するのか、を焦点として探る。「日本人の子孫であること」と「オーストラリア先住民であること」双方にアイデンティファイすることを可能としたロジックと社会的背景は何か、それが彼等の「日本人性」の構築とどの様に関係しているか、などを明るみに出していく事を目指した。

3. 研究の方法

本研究は(1)文献調査(2)北部オーストラリア(ブルーム)におけるフィールド調査(3)データの分析、の3段階で行われた。

(1) 文献調査

日本とオーストラリアにおける資料館や図書館においてオーストラリア北部への日本人移民に関して文献調査を行い、その歴史的背景を明らかにした。東京の海外移住資料館、オーストラリアへの移民を多く出した和歌山県の市民図書館、紀南地方における市町村の資料展示室、オーストラリアにおいてはシドニー大学の図書館、ブルームの歴史博物館などを中心にオーストラリア北部における日本人移民に関する文献を収集した。

(2) ブルームにおけるフィールド調査

文献調査で得られた知見をもとに、2013年11月、2014年7-9月に北部オーストラリアの都市で真珠貝採取業の中心地として日本人移民の集中したブルームをフィールド調査地とし、参与観察とインタビューを中心とした調査を行った。対象者は日本人移民とその子孫、特に、先住民と日本人との混血の人々を中心とした。インタビュー対象者は、研究代表者が2009年、2010年の予備調査において培ったネットワークを利用した。また、並行してブルームにおけるエスニック・グループの集まりやコミュニティの行事に参加し、参与観察を行った。インタビュー内容は対象者のライフ・ヒストリー、アイデンティティ、日本人側と先住民側との親族・社会関係とコミュニティ活動に関してである。

(3) データ分析

文献調査とフィールド調査で得られた知見をもとに、日本人としてのアイデンティティと先住民としてのアイデンティティのあり方、及びその社会関係とのかかわりを焦点にデータ分析を行った。

4. 研究成果

本研究においては、オーストラリア北部の都市ブルームにおいて、19世紀後半から20世紀半ばまでに移住した日本人移民とオーストラリア先住民の交流の歴史が、その子孫の間においてどのように生きられ、彼らのアイデンティティに影響を及ぼしているのかを中心に探った。文献調査とフィールド調査を通じて明らかになったことは、日本人とオーストラリア先住民の子孫の人々は、日本人と

しての親族、社会関係、コミュニティ活動への参加などはまちまちであるが、多くの人々がオーストラリア先住民としての親族ネットワークの中で社会生活を送りながらも、日本人のルーツを積極的に認め、そのルーツを語り、たどる、という実践を行っていることである。そこにおいてみられるのは、複数のエスニック・アイデンティティの共存を認める先住民コスモポリタニズムとも呼べるべき態度であり、アジア人との接触の歴史の長いオーストラリア北部においては、日本人のルーツを持ち、認めること自体が「先住民であること」のあり方の一部を形成する、ということであった。

同研究成果の位置づけとしては、まず、日本人のルーツのみに焦点を絞る傾向のある国内外の日本人研究において、日本人側と非日本人側双方のルーツを両立させる混血の人々、という姿を提示し、これまでの日本人移民研究に一石を投じた。また、オーストラリア先住民研究においても、これまで「静的」で「人種的に交わらない」とされがちであった先住民のイメージに関し、西洋人による植民地化以前よりコスモポリタニック状況に適応してきた先住民像を提示した。

今後の展望としては、本調査で得られた知見は、世界中における日本人移民のあり方を、非日本人側のルーツをも踏まえた観点より見直していく事に貢献できる。また、オーストラリア先住民との関係性を探ってきたことにより、現在の日豪関係において見落とされがちなオーストラリア先住民との「和解」問題への日本の関わりに関し考察を深めていく事が期待される。

<引用文献>

- 小川平、あゆみ出版、『アラフラ海の真珠』、1976
久原修司、「和歌山県のオーストラリア出稼ぎ移民」『21世紀和歌山』第7巻、1986
窪田幸子、世界思想社、『アボリジニ社会のジェンダー人類学-先住民・女性・社会変化』、2005
塩原良和、「エッセンシャルな記憶・ハイブリッドな記憶-キャンベラの日本人エスニックスクールを事例に」『オーストラリア研究』第15巻3号、2003
司馬遼太郎、文藝春秋、『木曜島の夜会』、1980
鈴木譲二、平凡社、『日本人出稼ぎ移民』、1992
中野不二男、文藝春秋、『マリーとマサトラ-日本人ダイバーとアボリジニの妻』、1986
Bain, M.A. Artlook Books, *Full Fathom Five*. 1982
Berndt, R.M. And Berndt C.H., *Chesire, Arnhem Land: Its History and Its People*, 1954
Ganter, R., University of Western

Australia Press, *Mixed Relations: Asian-Aboriginal Contact in North Australia*, 2006

Mizukami, T., Brill, *The Sojourner Community: Japanese Migration and Residency in Australia*. 2007

Nagata, Y., University of Queensland Press, *Unwanted Aliens: Japanese Internment in Australia*. 1996

Root, M. (ed), Sage Publications, *Racially Mixed People in America*, 1992

Sissons, D., 'The Japanese in the Australian Pearling Industry', *Queensland Heritage*, vol.3 (10), 1979

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計 3 件)

Yuriko Yamanouchi, 'Transnational and Local: Japanese Migrants, Indigenous Australians, and their descendants', IUAES Inter-Congress 2015, July 2015, Thammasat University, Bangkok, Thailand

山内由理子 「There are many of us- オーストラリア北西部ブルームにおける日本人移民とオーストラリア先住民」、オーストラリア学会第 26 回研究大会、2015 年 6 月、慶應義塾大学、東京、三田

Yuriko Yamanouchi, 'Neither Western nor Native', The Canadian Anthropology Society Annual Conference (CASCA), May 2012, University of Alberta, Edmonton, Canada

[図書](計 5 件)

山内由理子 他、法律文化社、長友淳(編) 『オーストラリアの日本人 過去そして現在 (仮)』、掲載決定、「日本人移民と先住民コスモポリタニズム」担当

Yuriko Yamanouchi 他, University of Hawai'i Press, D. Williams et al (eds), 'Hapa Japan, vol.1, History', 2015, 'I am "mixed" and identify with all the cultures equally': Japanese-Aboriginal Australian and other Mixed Heritage people in Broome, north western Australia', 担当

山内由理子 他、御茶の水書房、山内由理子(編著) 『オーストラリア先住民と日本-先住民学・交流・表象』、2014、「はじめに」、pp. i-xii、担当

山内由理子 他、御茶の水書房、山内由理子(編著) 『オーストラリア先住民と日本-先住民学・交流・表象』、2014、「日本人とオーストラリア先住民の交流史」、pp.98 - 112、担当

山内由理子 他、御茶の水書房、山内由理子(編著) 『オーストラリア先住民と日本-先住民学・交流・表象』、2014、「おわりに」、pp.297 - 299、担当

[その他]

編書

山内由理子 (編著) 御茶の水書房、 『オーストラリア先住民と日本-先住民学・交流・表象』、2014

翻訳

山内由理子、御茶の水書房、 『オーストラリア先住民と日本-先住民学・交流・表象』、2014、L.T. 「日系アポリジニとして(一) -Yearning of the Hearts」、pp.152-159、担当

翻訳

山内由理子、御茶の水書房、 『オーストラリア先住民と日本-先住民学・交流・表象』、2014、コーリン・増田 「日系アポリジニとして(二) -ブルームに生まれて」、pp.161-164、担当

講演

Yuriko Yamanouchi, 'Interethnic Encounter: Japanese Descendants and Indigenous Australians in Northern Australia', The Flinders History Seminar Series, 2012, The Flinders University, Adelaide, Australia

講演

Yuriko Yamanouchi, 'Japanese migrants and Indigenous Australians in the northern Australia', J-Kai, Japan Australia Friendship Association, 2012, The Metropolitan Hotel, Adelaide, Australia.

6. 研究組織

(1)研究代表者

山内 由理子 (YAMANOUCHI, Yuriko)
東京外国語大学・総合国際学研究院・准教授

研究者番号：50626348